

NCGG-UniCo

実証研究、体制構築、およびワーキンググループ活動の進捗状況

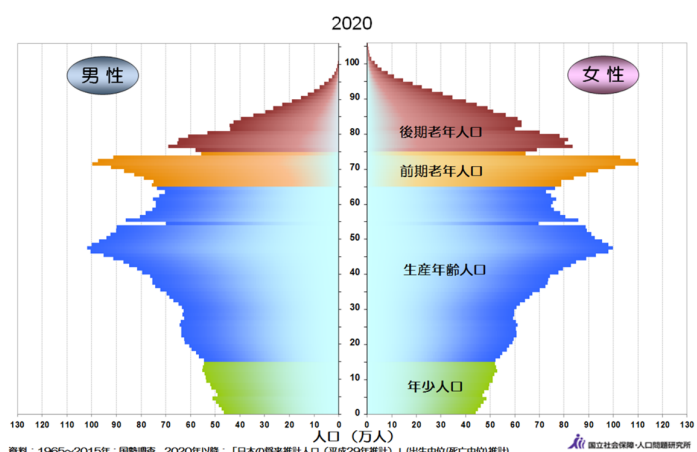


国立長寿医療研究センター
老年社会科学研究部
NCGG-UniCoプロジェクトリーダー
斎藤 民

構成

- はじめに
- 研究・活動進捗報告
 - UniCo推進のための基礎研究
 - 外出行動調査
 - まち歩き調査
 - プロトイラスト作成
 - PRグッズ紹介
 - 開発体制づくり
 - 2024年度UniCoワーキンググループ活動報告
- 今後の予定(2024年度)など

背景



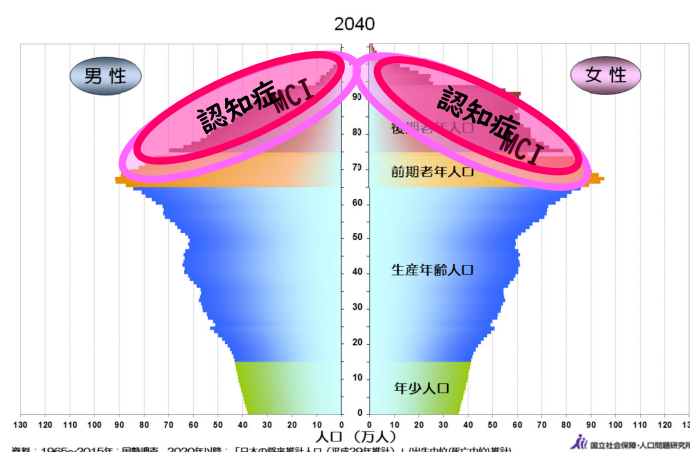
高齢化率(2021): 29.1%

うち後期高齢: 15.0%

平均寿命(2021男): 81.6歳

平均寿命(2021女): 87.7歳

(総務省推計)



2040年高齢化率: 推計35.4%

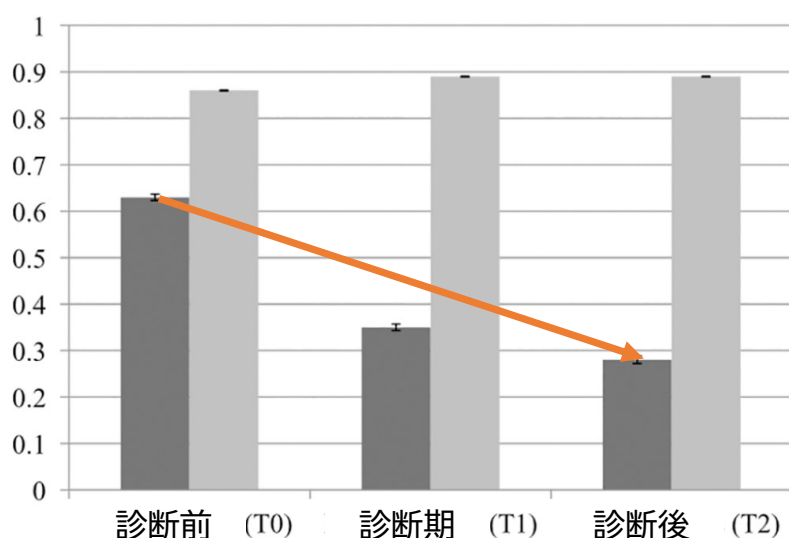
認知症の人と予備軍の人を合わせると

全人口の1割以上、高齢者の約3分の1の見込み

(厚生労働省推計)

3

認知症の人の孤立 (Hackett et al., PLoS ONE, 2019)



1か月以内に友人や家族と対面で会う人の割合

- 英国4年間の縦断研究
- 4171名対象
- 認知症診断前から孤立傾向、診断後はさらに孤立

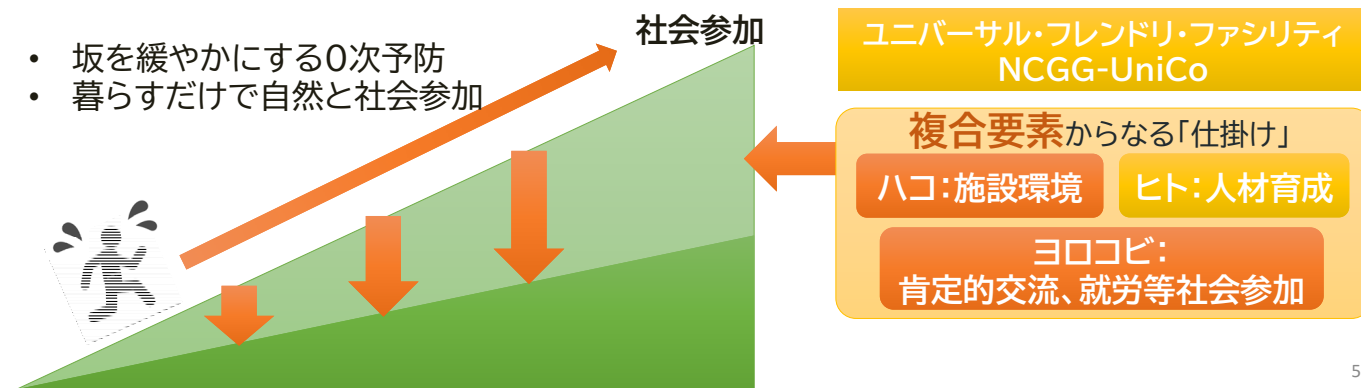
年齢、性、資産、教育による重みづけと調整済み。エラーバーは標準誤差。Hackett et al. (2019)より、報告者翻訳

4

NCGG-Universal Community (NCGG-UniCo)基本コンセプト

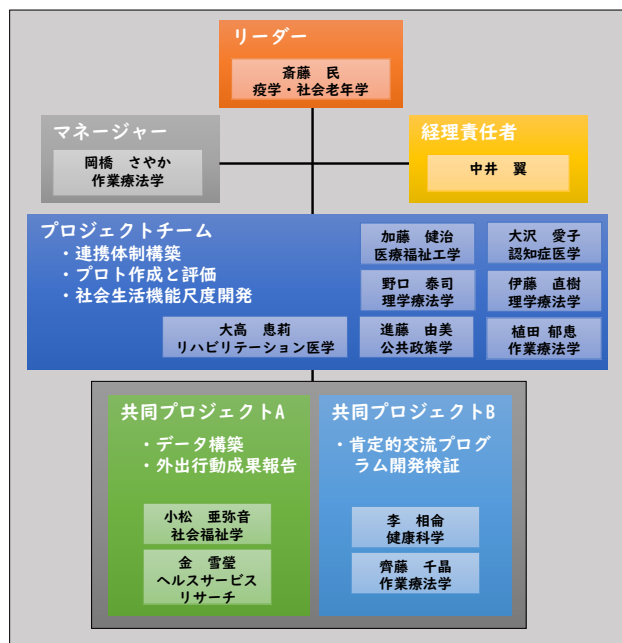
すべての人に社会参加とウェルビーイングを

認知症やさまざまな障害があっても
社会生活や経済生活を継続、認知症スティグマ軽減と
ウェルビーイングを目指す環境への介入と検証



5

プロジェクトメンバー・協力者の方々



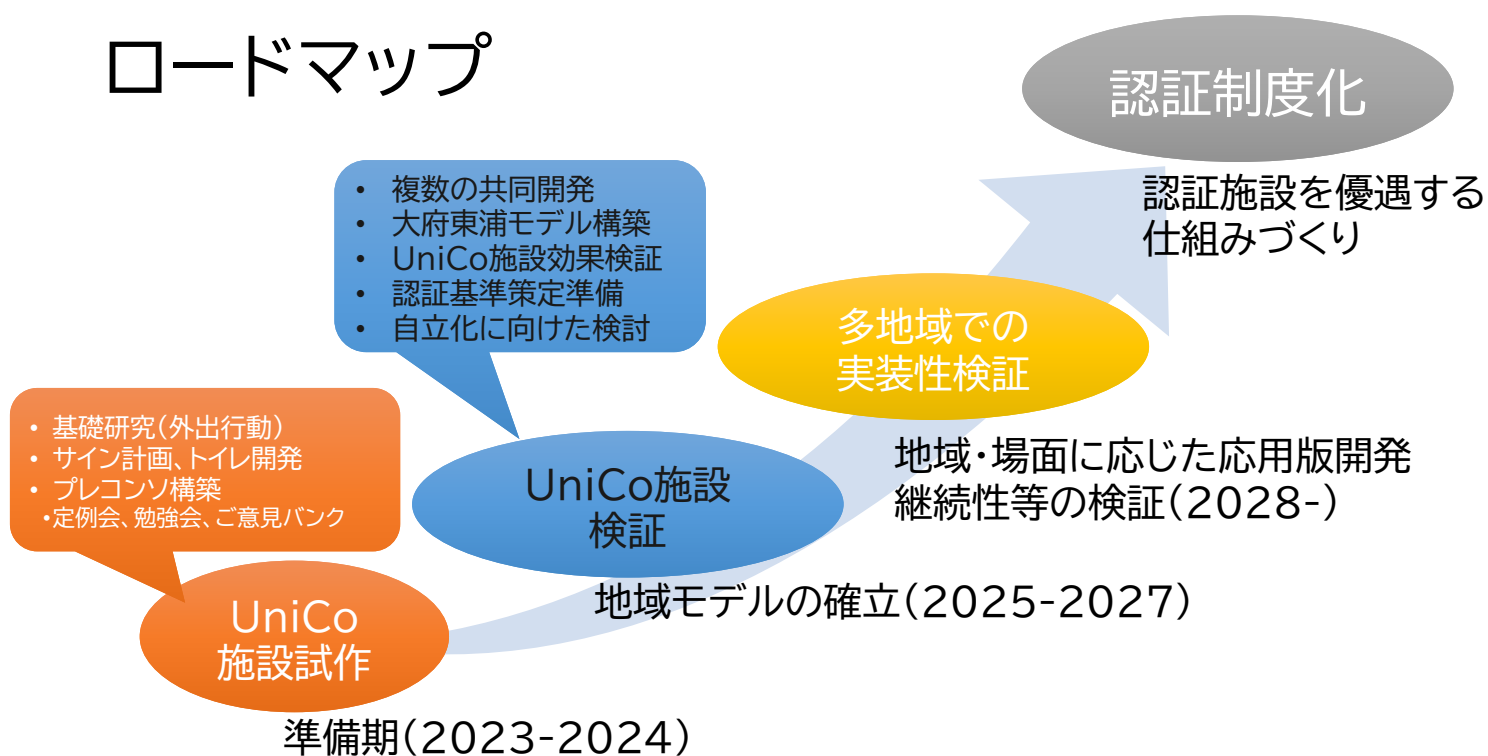
研究協力者（敬称略）

研究助言・情報提供等

二瓶美里（東京大学）、清川清（奈良先端科学技術大学）、堀田聡子（慶應義塾大学）、中島民恵子（日本福祉大学）、野口祐子（日本工業大学）、大府市、東浦町、東浦町介護者の会、大府市認知症カフェA、山口喜樹（名古屋市認知症相談支援センター、名古屋市認知症当事者の会）、株式会社アイム、三菱UFJ銀行、げんきの郷、LIXIL、TOTO、小林純子（ Gondola 設計事務所）、スギ薬局、豊島、イオン、マイヤ、その他の方々

6

ロードマップ



7

外出行動調査

Q. 認知症になると、どこに行きにくくなるのか？どこに行き続けたいのか？

非公開

8

まち歩き調査

Q. 認知症の人とご家族は、実際にお店を利用してみて、
どのような点が利用しづらいと感じるのか？

9



ご協力をいただきました名古屋市認知症相談支援センターの職員の皆様、
そして「トイプードルの会」ご参加者の皆様、
イオンモール東浦、げんきの郷の皆様にご心から御礼申し上げます。

NCGG-UniCo
まち歩き調査中間報告

10

まち歩き調査の概要

【目的】

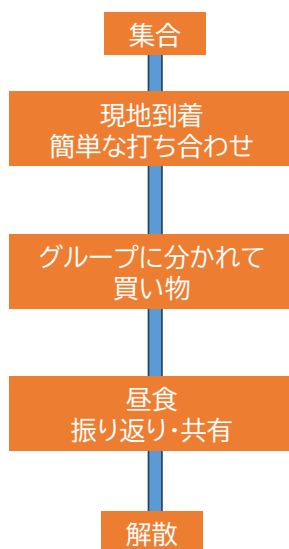
認知症の当事者と家族、研究者が共に「買い物」に行き、そこで当事者や家族が感じた「買い物のしやすさ」や「しにくさ」に関する発言を収集・記録。認知症の当事者や家族が「買い物しやすい環境」に必要な要素を整理し、今後の検討や改善に向けた基礎情報とする。

	第1回 イオンモール東浦	第2回 げんきの郷
日程	令和6年4月24日(水)	令和6年6月28日(金)
集合場所	金山駅	金山駅、大府駅、げんきの郷
参加者	認知症のご本人：2名 ご家族：2名 支援者(インタビュアー含む)：6名	認知症のご本人：4名 ご家族： 支援者(インタビュアー含む)：6名
買い物内容	事前に決めたものを探し、購入	食料品の購入 (お惣菜やパンを含む)

11

当日の流れと当事者・ご家族のご発言(要約)

【当日の流れ】



【確認ポイントと当事者・ご家族の発言(代表的なもの)】

- 店舗までの道
 - ・ 駅から店舗までの道がわかりにくい/遠い
 - ・ 電車・バスの本数が限られている
- 買い物対象の店舗
 - ・ 見やすい、探しやすい、好みのものが探せる
 - ・ 会計の場所がわかりにくい
 - ・ 商品をしまう場所がない
 - ・ 値札が読みにくい/文字で書かれた説明がわかりにくい
 - ・ 現金しか使えなくて不便
- 食事空間(フードコート)
 - ・ 広々としていて気持ちいい
 - ・ いろいろ選べて楽しい
- トイレ
 - ・ 手を洗う場所の使い方がわかりにくい
 - ・ 使用中かそうでないかわかりにくい
 - ・ 扉の開め方がわかりにく

【進捗】

当日のご発言のテープ起こしと匿名化が終了。今後、集計・整理と論文執筆を行っていく。

12

お買い物は高齢者に重要

- 買い物は、身体機能・認知機能を要する行動
 - 自分が欲しいものを決め、購入 = コントロール感はWBに重要
(George, J Gerontol, 2010)
 - 買い物を継続することで、それらを賦活させる可能性あり
 - お買い物(を活用した)リハビリ利用者で、フレイルのリスク減少(Mouri et al, J Environ Res Public Health, 2022)、歩数増加(Baba, et al, PLoS ONE, 2020)
-
- 科学的根拠のレベルはまだ十分ではないが、見込みあり
 - 介護事業所での通所サービスに取り入れているところも

13

プロトイラスト作成

Q. UniColは、施設の何を改善しようとしているのか？

14

プロトイラスト案



- 12の仕掛けを内包
- 取り組める箇所から順次開発
- 勉強会やプレコンソ会議を通じて13個目以降を更新したい

15

広報活動のためのその他の制作物

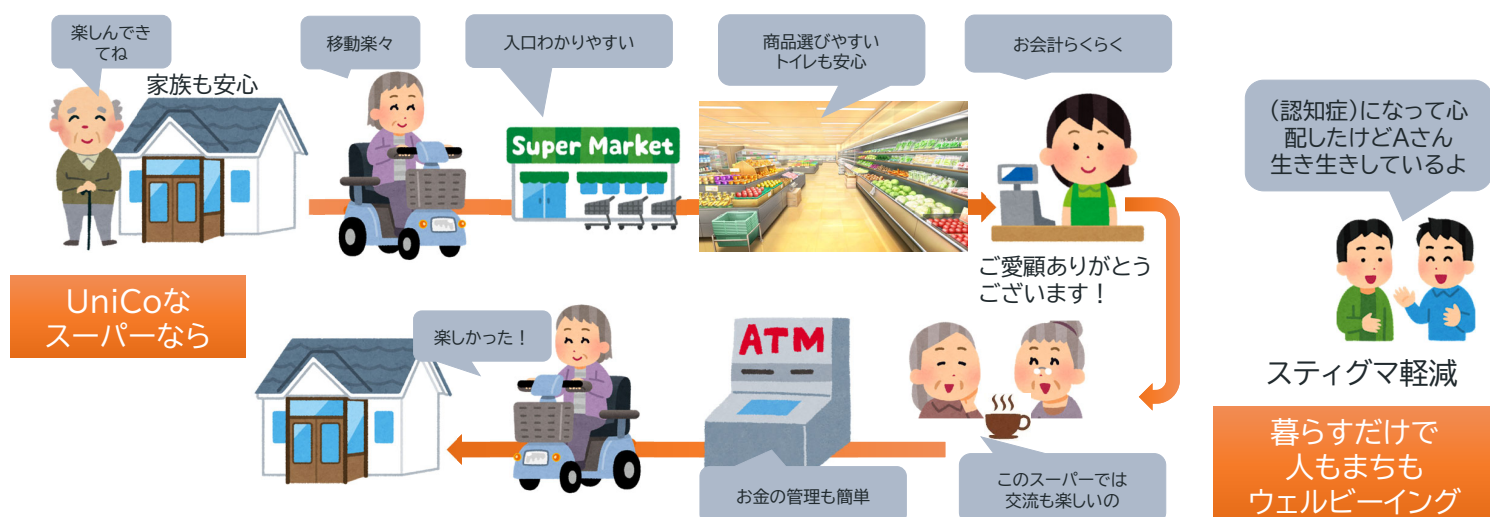
- UniCoシール 大・小
- UniCoポロシャツ
 - 背面デザインは、東浦町在住の高校生が手がけた
 - 地域の誰もが同じ目標に向かって、を体現

16

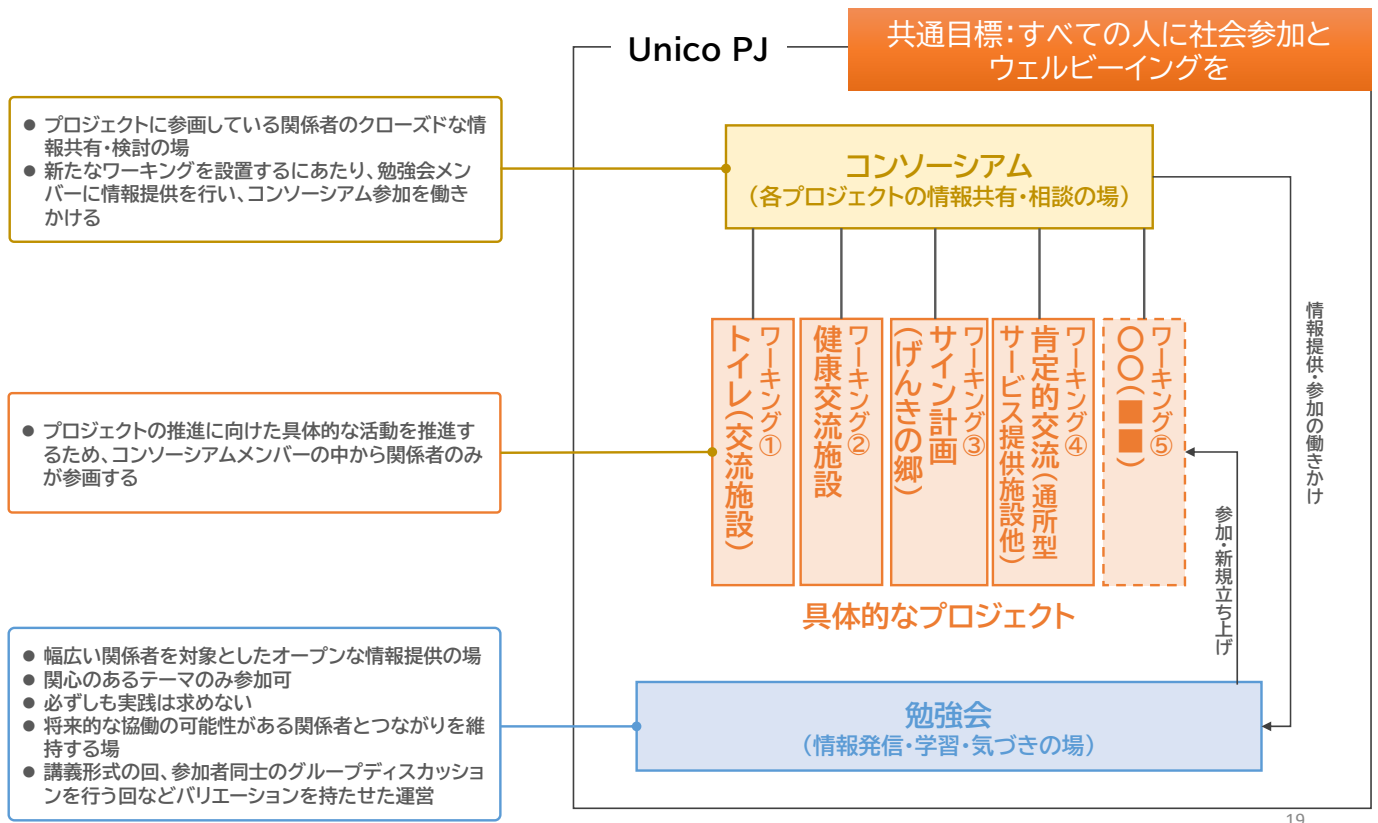
開発体制づくり

Q. どのような協力体制でUniCoを実現していくのか？

17



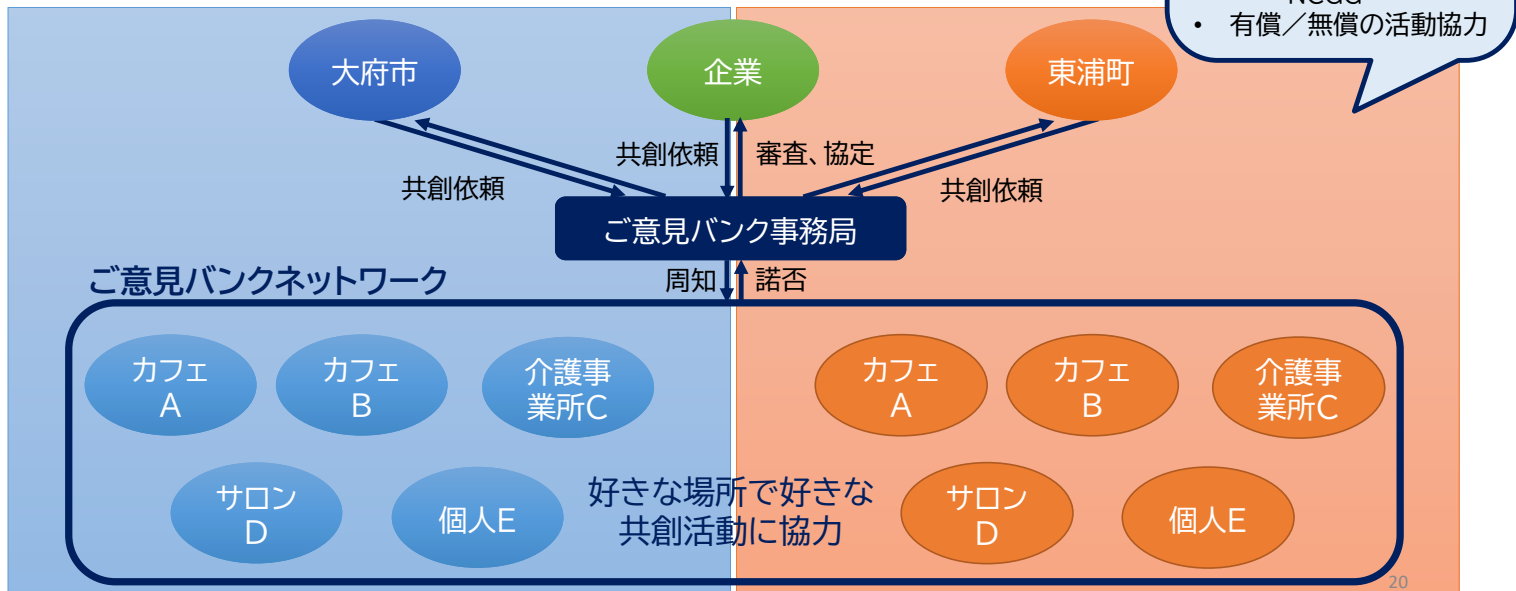
18



19

ご意見バンク構想

「あなたの声を聞かせてください」



- ・ 緩やかな情報共有
- ・ 対象
 - ・ 既存組織
 - ・ 調査協力者
- ・ 活動場所
 - ・ サロンやカフェ等
 - ・ 自宅
 - ・ NCGG
- ・ 有償／無償の活動協力

20

勉強会2024年度スケジュール

- ・ 第1回(5月)「誰でも使いやすいトイレのデザインについて」
- ・ 第2回(6月)「認知症の人にもわかりやすいサイン・表示について」
- ・ 第3回(7月)「排泄の困りごととその解決に向けた手がかりの発見」
- ・ 第4回(10月)「認知症の人が参加しやすいプログラム・場づくり」

トイレ

サイン

トイレ

交流

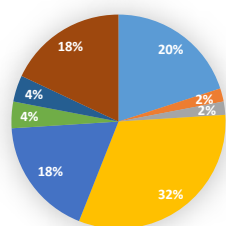
ご案内: 次回は、**10月24日(木)午後4時～5時30分**の予定です。
認知症カフェの研究者と実践者に登壇いただきます。
詳細は、後日改めてご連絡いたします。

- ・ 第5回()「」(未定)
- ・ 第6回()「」(未定)

21

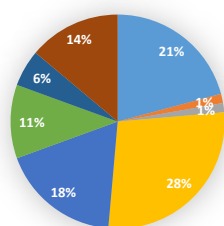
各回のご登録者

第1回(トイレ)



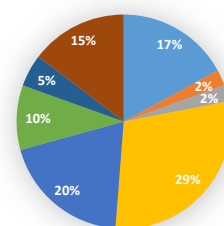
■ 行政関係者 ■ 当事者・ご家族の方 ■ 地域の方
■ 企業関係者 ■ 研究者・大学関係者 ■ 医療・福祉関係者
■ その他 ■ UniCo関係者

第2回(サイン計画)



■ 行政関係者 ■ 当事者・ご家族の方 ■ 地域の方
■ 企業関係者 ■ 研究者・大学関係者 ■ 医療・福祉関係者
■ その他 ■ UniCo関係者

第3回(排泄)



■ 行政関係者 ■ 当事者・ご家族の方 ■ 地域の方
■ 企業関係者 ■ 研究者・大学関係者 ■ 医療・福祉関係者
■ その他 ■ UniCoメンバー

- ・ テーマにより、少しずつ異なる方がご登録、毎回参加してくださる方も多数
- ・ 満足度は「大変参考になった」が64～92%(ややを含めると前回とも9割以上)

22

「UniCo知」の集約・共有化に向けて

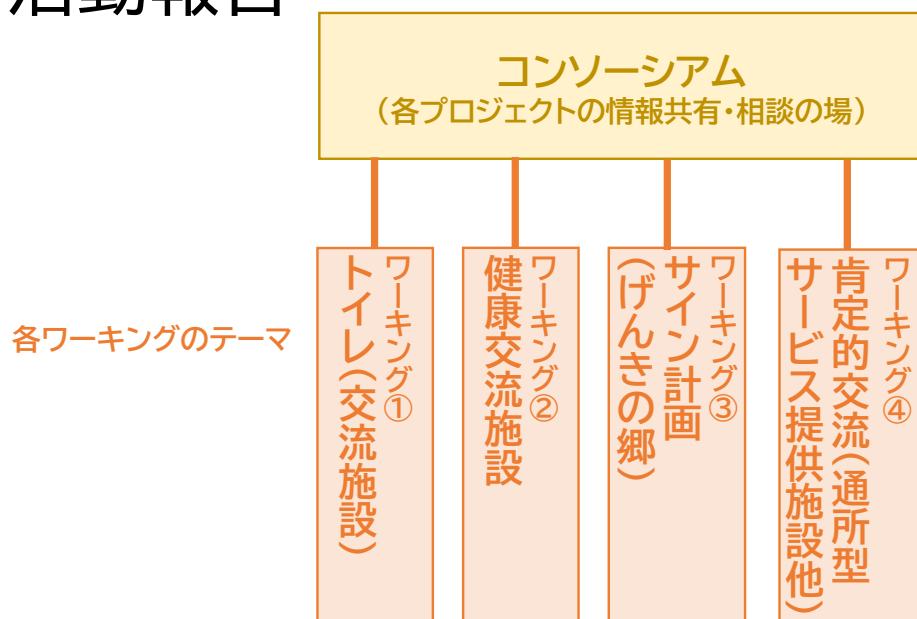
- 会議でのグループワークや勉強会のアンケートを通じて、多くの方がアイデアや質問を投げかけてくださっている
- これらをUniCo内で共有・活用するため、今年度内に整備



UniCo開発の促進

23

2024年度UniCoワーキンググループ活動報告



24

認知症の人にも誰にもやさしいトイレづくり @大府市健康交流施設

25

大府市健康交流施設

- 今年度より設計開始、2026年度完成予定の公共施設
- 高齢者を中心に一般市民が利用するスペースと児童生徒向けスペースの合築
- 大府市のご協力により、UniCoコンセプトを活用していただけることとなった

26

WGメンバー(敬称略)

大府市役所(施主)

- ・ 健康未来部

NCGG

- ・ 病院 リハビリテーション科
- ・ 研究所 老年社会科学研究部
 - ・ コンサルティング委託:MURC

- ・ 野口祐子(日本工業大学)
- ・ 小林純子(設計事務所ゴンドラ)
- ・ 株式会社LIXIL
- ・ TOTO株式会社

- ・ 認知症の人とご家族
- ・ 支援者(李相侖、齊藤千晶ほか)

27

なぜトイレが重要なのか？

- ・ 失敗が尊厳に関わる
- ・ 不安や失敗経験が外出や社会活動を損なう
- ・ 在宅介護では、介護負担の主要な要因

しかし



環境介入で改善可能

- ・ 外出先では、1時間に1回程度利用する方もある
- ・ 利用しやすいトイレがなく、外出しづらい人(認知症に限らず)が多い

28

UniCoトイレの価値

- 全国に先駆け、認知症の人(および発達障がい・知的障がいのある人、子ども等も視野に)や異性介助者、トランスジェンダーの人等にもやさしいトイレを導入
 - 参考:東京都「多様な利用者のニーズに配慮したユニバーサルデザインのトイレづくりハンドブック」



- 認知症の人と家族との共創事例
 - 認知症の人と家族の新たな社会参加(開発協力)



29

重症度別認知症の人と異性介助者を想定したトイレニーズ

非公開

30

スケジュール

- ~~8月27日~~ ~~WG(第1回)~~
- ~~9月8日~~ ~~認知症の人・家族との意見交換会~~
- 9月下旬 WG(第2回)
- 10月下旬 WG(第3回) *大府市健康交流施設トイレ検討はここまで
- 11月以降 WG継続



- 2025年3月に、UniCoトイレ提案書としてまとめる
- 以降、引き続き大府市・東浦町にご相談しながら連携
- 2025年度より、検証フェーズへ

31

げんきの郷の環境改善 ～リニューアルオープン前後において～

国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部
NCGG-UniCoプロジェクト

- リニューアルオープン: 2024.7.20
- 調査日: 2024.5.9、8.2、8.23

32

JAあぐりタウン げんきの郷



- ・ 愛知県大府市にある日本最大級の産地直売所
- ・ 理念: 農と食、環境と福祉、文化をテーマとした健康・安全の地域づくり
- ・ 年間の来場者は216万人(2022年度)

<https://agritown.co.jp/about/>

<https://www.asahi.com/articles/ASS3Z4RG1S3ZOIPE00WM.html>

33

げんきの郷(つづき)



- ・ 2024年7月20日リニューアルオープン
- ・ まち歩き調査フィールドとしてご協力
- ・ UniColはリニューアルに向けて「認知症にやさしい」提案を実施
- ・ 認知症の人の視点を取り入れ、さらに特定箇所を重点的に改良予定

34

はなまる市前の通路

- ・出店スペースは塗装が新しくなり、見分けやすくなった
- ・テントは撤去され、駐車場や通路からの見通しが改善



改修前



改修後



35

トイレ(総合案内裏)

- ・扉の塗装変更
- ・各トイレのサインのデザイン変更
- ・女子トイレ案内用に床表示新設



改修前



改修後

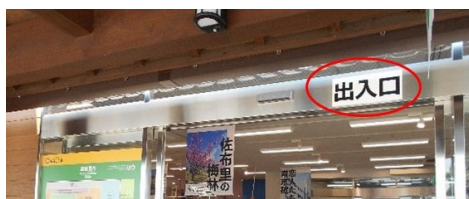


36

産直市場

改修後

- ・上方に出入口の表示あり（双方向通行）
- ・産直スペースの出入口は3カ所で、全てにフロアマップ表示あり



- ・レジ10 台の内 6台 セミセルフレジ（支払いのみセルフのもの）
4台 有人レジ
- ・レジ周囲には、床に並ぶ場所の表示あり



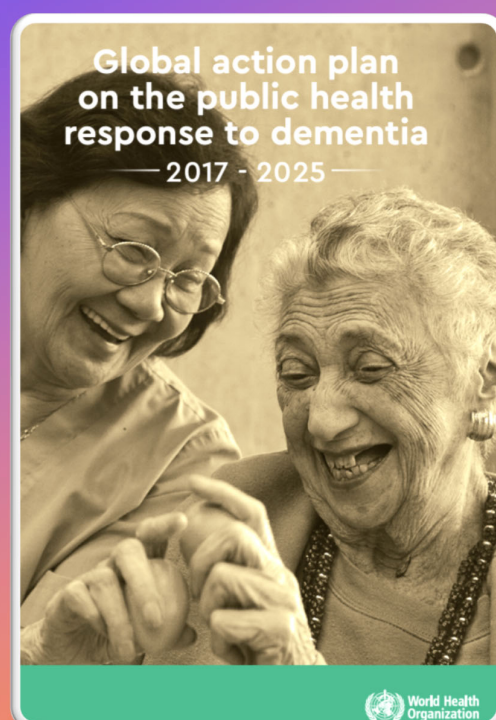
37

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と地域住民の社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

肯定的交流 プログラムの 効果検証



認知症介護研究・研修大府センター
李相侖、齊藤千晶



World Health Organization

Old Age Research Institute

引用 <https://www.who.int/publications/i/item/global-action-plan-on-the-public-health-response-to-dementia-2017-2025>

肯定的交流プログラムの効果検証

■ 背景

- ・ **社会参加**とサポートは健康とウェルビーイングと関連、社会的包摂はライフコースを通じて支援されるべき (WHO, Risk Reduction of Cognitive Decline and Dementia; WHO, Global age-friendly cities; a guide)
- ・ 社会参加は、認知症等になっても幸福で健康に生きる (Well-being) 実現に重要な要素のひとつ
- ・ 認知症患者のQOLに影響を与える要因としては、**人との交流**、自分の生活を自ら調整できること (Moyle W, et al. Age Ment Hlth. 2011)
- ・ **笑い**と**ユーモア**の介入は高齢者の幸福感を向上 (Gonot-Schoupskya, F. N. et al, Complement Ther Med2018)
- ・ 加齢とともに笑いの量は減少 (Martin RA, Kuiper N: Int J Humor Res 1999;12:355-384.)。認知症になると、認知機能低下とともに、顔の表情認識のなど、情動認知に障害を有する可能性がある (Waanders-Oude Elferink, M et al., 2015)。このような能力はコミュニケーションにおいて重要な役割を果たす (Torres Mendonça De Melo Fadel B et al., 2018)。認知症の人に対する顔認識の研究では、否定的感情はわかりづらいが、幸せな顔は認識しやすいとされ、(Torres et al., 2015)、残存能力を活用するケアが重要 (Hirazakura et al., 2008 ; Fujii et al., 2014a)
- ・ 認知症は情報処理能力等の認知機能とコミュニケーションの両方に障害を及ぼすため、**人との交流で笑う**ことは認知症の発症で失われやすく、孤立感を感じやすい状況

認知症（認知機能低下）の人に対し、笑顔・肯定的感情や他者との交流を合わせた
肯定的交流プログラムを開発し、心理的ウェルビーイング維持・向上における効果検証を行う

39

肯定的交流プログラムの開発、対象者

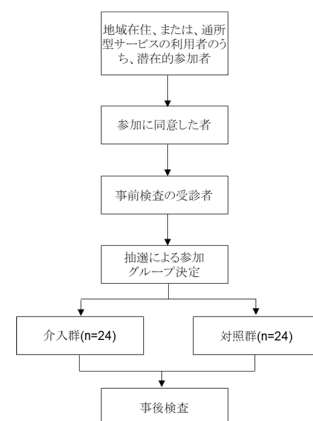
1. 肯定的交流プログラム

- ① 笑い、喜び：緊張の解放によって誘発されるもの、快い感情を伴うもの、社会的コミュニケーションに用いられるものの種類があり (Takeda M et al. BMC Complement Altern Med. 2010; 10: 28.)
- ② 肯定的交流：一人で行うときよりも他人と一緒にいるときの方が笑いは、30倍起こりやすい (Robert R, et al Ethology 1989)
- ③ 参加型：ゲームへの参加、宿題

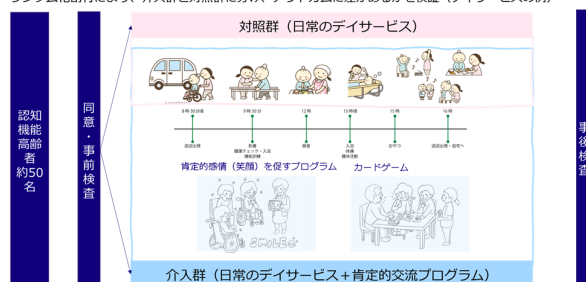
2. **対象者**：地域在住の認知機能低下の高齢者（認知症高齢者、通所型サービス利用者を含む）（MMSE20-27）の48名

3. 研究デザイン：ランダム化比較試験

- 介入前にスクリーニング検査による該当者に対し、研究の説明・同意
- 介入前後に事前・事後検査の実施



ランダム化割付により、介入群と対照群に分け、アウトカムに差があるかを検証（ディサービスの例）



40

2024年度今後の予定

- ・各ワーキング(サイン計画、交流、トイレ)の遂行

会議・勉強会スケジュールと概要

第2回プレコンソーシアム会議(9月13日)

第4回勉強会(10月24日)

第5回勉強会

第6回勉強会

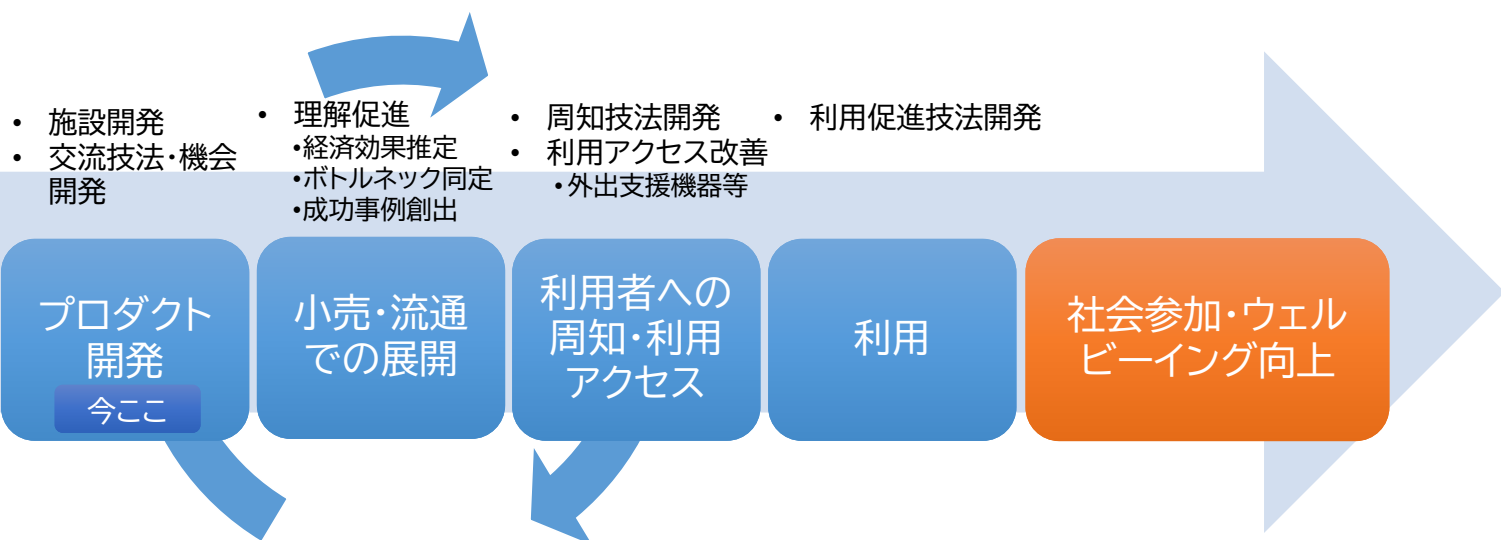
企画・ご要望があれば、いつでもご連絡ください

第3回プレコンソーシアム会議(3月14日)

- ・ 成果報告、2025年度の方向性共有(予定)

41

UniCo実現のための工程、課題の克服



42